



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4215 号 2018.2.17 発行

大阪成長へ「子どもに投資」 教育の質踏み込む 大阪日日新聞 2018年2月16日

2018年度のキャッチフレーズは「子どもの環境充実予算」。吉村洋文市長が「待機児童対策やり過ぎ予算」と銘打った本年度の予算は、新年度にはさらに課外学習支援の拡充や、都心部での児童急増に伴う教室不足の改善など、教育の「質」に踏み込んだ。



「子どもの環境充実予算」のボードを掲げ、重点配分を強調する吉村市長＝15日、大阪市役所

「子どもたちの方を向いた予算編成だ」とする中で、「あらゆる世代を支え、まちの成長にも投資していく」とバランスも重視。就任時の選挙公約に掲げた幼児教育無償化の3歳児への拡大は、「(残り1年半余りの)任期中に実現させる」と自信を示した。

市政運営の看板に掲げる幼児教育無償化を巡っては、市が政令市では全国で初めて段階的に導入。本年度は4、5歳児の4万人強を対象に約55億円を計上したが、新年度は既に一部を対象に含めていた認可外保育所も「特色ある教育を行っている施設」に、さらに拡大する。

待機児童増加への対応には、認可保育所の創設など約85億円を投じて4054人の入所枠を整備。保育士を安定して確保するため約11億円を計上して1850人を目指す。

本年度の入所枠は目標の6053人には届かなかったものの、例年の2倍を超える4745人の入所枠になったが、賃料の高い都心部での土地確保や3歳児の受け皿など課題が残る。

全体として「収入の範囲内で予算を組む」という編成方針ながら、一方では190億円の通常収支不足を補うため、自治体の貯金に当たる財政調整基金を取り崩すなど厳しい財政運営が続く。

旗印に掲げる「未来への投資」は、ばらまきに終わっていないか。3歳児への無償化拡大実現に向けても今後、さらに丁寧な検証が求められる。

子ども貧困対策 本格化 サポートネット構築へ

大阪市は子どもの貧困対策として、新年度予算案に総額7億800万円を計上した。地域や学校、企業や行政など社会全体で子育て世代を支援する「大阪市子どもサポートネットの構築」や、「ひとり親家庭の自立に向けたさまざまな希望をサポート」といった事業を柱に、前年度の2億4800万円から3倍強増額し、対策を本格化させる。

新規事業の「子どもサポートネット」(1億6900万円)では、教師らによる「チーム学校」にスクールソーシャルワーカー(SSW)やコーディネーター(区役所)らを加えた会議を通じ、課題を抱える子どもを発見して区役所や地域につなぐ。18年度は浪速区や住之江区など七つのモデル区で実施。SSW8人、コーディネーター24人を新たに採用する。

「ひとり親家庭の自立」事業(1億5200万円)のうち、新規事業として資格取得の

ために専門学校などの入学に向けた受講料（上限33万円）を全額補助。25歳未満の若年一人親（所得制限あり）で結婚して児童扶養手当の支給資格を失った人に対して、月額2万円を2年間給付する。

「こども支援ネットワーク」事業（600万円）は、地域で子どもの貧困などの課題解決に取り組む子ども食堂などの団体、その団体を支援する企業、社会福祉施設などのネットワーク化を図る事業に対し、経費の一部を補助する。

吉村洋文市長は「市の支援施策を知らない貧困世帯が多い。必要な人に適切な行政サービスを受けられるようにする。企業や大学も安心して参入できる仕組みを、いかに安定させるかも大事」と意欲を見せた。

<主な新規・拡充事業>

【子育て・教育】

保育所で重大事故が発生しやすい食事中や昼寝中に抜き打ちで巡回指導する「事故防止強化」（1500万円・新規）▽中学校教員の長時間勤務解消に向けて非常勤嘱託職員を配置する「部活動の在り方研究モデル」（1億5500万円）▽小中学校が独自で学力向上に向けた仕組みをつくる「校長裁量拡大特例校への支援」（3600万円・新規）

【暮らし・福祉】

課題を抱える子どもや子育て世帯を支援する「こどもサポートネットの構築」（1億6900万円・新規）▽地下鉄・私鉄の「可動式ホーム柵の整備促進」（1億8200万円）▽“小1の壁”の実態調査を含む「女子の活躍促進」（3500万円）

【成長戦略】

「2025年国際博覧会誘致推進」（1億4700万円）▽「なにわ筋線事業化促進」（5100万円・新規）▽統合型リゾート施設（IR）に関連する「アルコール・薬物・ギャンブル依存症対策支援」（600万円・新規）

【経済・産業育成】

ミナミの中心街を広場化する「なんば駅周辺の空間再編推進」（4700万円・新規）▽地下鉄今里筋線延伸部で実施する「バス高速輸送システム（BRT）社会実験準備」（23億6800万円・新規）▽大企業と中小・ベンチャー企業間で人材交流を進める「イノベーション人材の育成・流動化促進」（1500万円・新規）

大阪市「待機児童ゼロ」目指し、保育所4000人分整備方針

読売新聞 2018年2月16日

大阪市は15日、2019年4月の「待機児童ゼロ」を目指し、新たに認可保育所など113か所（約4000人分）を整備する方針を明らかにした。

18年4月の待機児童解消を目標に掲げていたが、達成は困難な見通しで、保育ニーズが高い都心部での施設整備を進める。18年度一般会計当初予算案に、関連事業費85億円を計上した。

大阪市では、希望した認可保育所に入れずに利用を諦めた場合など、厚生労働省の定義外のケースも含めた待機児童（17年4月現在）は2989人に上る。

市はこの解消を目的に、17年度予算で保育所用地を貸した所有者への税制優遇などの対策を実施。しかし、当初計画した入所枠（6053人分）に届かず、4745人分の確保にとどまる見通し。人気の高い都心部で、賃借料が高いために保育施設の確保が進まないことが要因だ。

このため市は、保育所が分園を設置した場合、賃借料の一部を10年間補助する。また、待機児童の増加が見込まれる3歳児の受け入れを条件に、認定こども園へ移行する幼稚園に整備費の一部を補助する。

15日発表の18年度大阪市当初予算案は、一般会計で1兆7771億円（前年度比0・8%増）。前年度に続き子育て・教育分野に4045億円（同3・1%増）と重点配分した。

財政収支は税込増で改善したが、収支不足は190億円と厳しい状況が続いている。

サラリーマン川柳 入選作発表 「技術進化」「働き方」の作品も

NHK ニュース 2018年2月15日

世相や働く人の本音をユーモアたっぷりに詠んだ「サラリーマン川柳コンクール」の入選作が発表され、テクノロジーの進化や働き方の変化などを取り上げた100の作品が選ばれました。

ことしで31回目となる「サラリーマン川柳コンクール」は大手生命保険会社の第一生命が毎年開催しているもので、15日、4万7000余りの句の中から入選した100の作品が発表されました。(カッコ内は雅号です)

「AI」や「IoT」

今回は、「AI」や「IoT」などテクノロジーの進化を詠んだ句が例年より多く寄せられたということで、

▽AIが俺の引退早めそう (だいちゃんZ！)、

▽IoT 何の表情？このマーク (顔文字太郎)、

▽電子化について行けずに紙対応 (トリッキー)、

▽ノーメイク 会社入れぬ顔認証 (北鎌倉人)、

などが入選しました。

「働き方改革」

生産性の向上や働き方改革を表した句も多く、

▽人減らし「定時であがれ 結果出せ」(まろちゃん)、

▽改善を提案すると業務増え (読み人知らず)、

▽テレワーク 家ではかどる 妻しぶる (サンサン太陽)、

などが選ばれています。

人間関係や世代間ギャップ

流行や話題の言葉を取り入れた句としては、

▽正直で忖度なしの体重計 (綾波翔太郎)、

▽孫に聞く 将来の夢 ユーチューバー (リンゴの森より)、

▽履歴書にインスタ映えの顔写真 (今風)、

▽妻いない この日は朝からプレミアム (ゆずいろ)、

などが選ばれました。

職場での人間関係や世代間のギャップを表した、

▽新人にメールで指示して 返事は「りよ」(定年間近)、

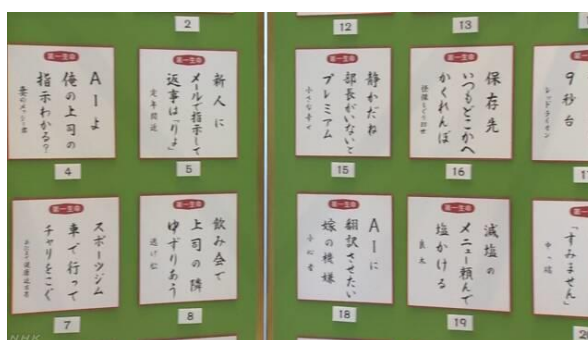
▽辞めますもSNSで済ます部下 (旧新人類)、

▽飲み会に部下を誘って10連敗 (あの頃は若かった)、

▽上司にも部下にも言えない「ちがうだろ」(プロテイン依存)、

などの句も選ばれています。

主催者「AIとのつきあい方に苦勞うかがえる」



コンクールを主催する第一生命の新美雅也課長は「AIなどの新しい技術が職場に入り始め、旬の中からも『自分の立場が危うくなる』などテクノロジーとのつきあい方に苦労している様子がうかがえました。一方で、職場内のことを詠んだ句など、私も1人のサラリーマンとして思わず『あるある』とってしまうような句もありました」と話していました。

サラリーマン川柳は、今回選ばれた作品の中からベスト10を決める投票が15日から行われ、5月下旬に結果が発表されます。

新実のハッケン！ お笑いで認知症予防 カンテレ 報道ランナー 2018年2月15日

新実「枚方市にやってきました。画期的な認知症の予防プログラムが開発された。どんなものなのでしょうか...こちらですね」

岩田「こんにちは。大阪精神医療センターの岩田です。この病院で精神科医の医者をしています」

認知症などの心の病を専門とする、大阪精神医療センターの医務局長、岩田さん。

今回のプログラムの発案者でもあります。

新実「セットが組まれている。参加される方？」

岩田「あれは吉本興業の社員。考案したのは、笑って脳を活性化しようというプログラム。笑いを取り入れながら、運動や脳トレをやってもらう。継続するために、楽しいって思う事が大事。」

大阪精神医療センターが、吉本興業などと一緒に考案した、笑って脳を活性化する、認知症予防プログラム。

60歳以上の枚方市民およそ30人が集まり、今年1月から実施しています。

さて、一体どんな内容なのでしょうか？私も参加させてもらいました。

新実「お名前は？」

女性「科野です。新実さん緊張してはる」

まずは、脳トレーニングから。

例えばこちら、指定されたかなの行で、2から5文字の単語を考え、50音が書かれたコップで、ピラミッドを作ります。



今回は「は」行で挑戦。

新実「ほたてがい」

女性「へんくつ」

新実「ふしぎはいけます...」

みんなでコミュニケーションを取り、協力してピラミッドを作っていきます。

ちなみに、完成した「は」行のピラミッドはご覧の通り。

新実「みなさんでやると盛り上がる」

岩田「一番の狙いは人との交流。会話が弾んで脳に良い効果をもたらす。意欲がわく。」

新実「表情変わってました。」

他にはこんな問題も。高速で出てくる文字を順に読み、問いに答えます。

分かりましたか？ 答えは「傘」。

脳トレが終われば、吉本の芸人と一緒にゲームを楽しみます。

まずは、「ペーパーゴルフ」。

参加者がそれぞれ、紙ヒコーキを作り....、

会場の奥にある白い容器に、何回投げてカップインできるかを競います。



新実「早さじゃないのに、みんなめっちゃ焦る！」
競うのは投げた回数なのに、我先にとカップインを急ぐ皆さん。
芸人「ゴルフなんで、何打という勝負なんで...。」
女性「我忘れる。子どもに返って」
続いてはチーム戦。
トイレットペーパーを足に巻き、二人三脚で、

どちらのチームが早くゴールできるかを競います。

新実「うまい！速い！」

紙が破れないよう、息をあわせ、一步ずつ進んでいきます。

新実「1、2、1、2、やばいやばい！」

男性「頑張れ！」

新実「みなさん、認知症予防っていう意識がなくて」

岩田「まずは楽しむことが大事」

ちょっとしんどい事、不便な事も、楽しみながら。

それが、脳の活性化に繋がるというのです。

でも実は、岩田先生の狙いは、それだけではありません。

岩田「脳トレも運動も、認知機能の改善に効果があることは分かっているが、一つ一つ別々にやっても、あまり効果的ではない。組み合わせることで、相乗効果が得られる」

新実「すでに組み合わせる事で効果が？」

岩田「まさに、今回の取り組みで評価をして検討したい」

実は、様々な研究によって、「笑い」は、心や身体に良いと言われていています。

吉本興業は他にも、近畿大学などと協力し、笑いの医学的な検証実験を行うなど、

最近、「笑い」が医療でも注目されているのです。

【吉本クリエイティブエージェンシーの担当】「認知症予防トレーニングが苦じゃなくなる。楽しく長く続けていっていただけたらと思う。」

この日のプログラムは、栄養指導や、調理実習などを行い、終了です。

女性「私、紙飛行機は初めてなんです。童心に戻る」

男性「みんなでやることで、ゲーム感が出て楽しかった」



ばいいなと思います」

女性「色々な事ができるのが脳に良いのかなと思う」

新実「皆さん笑顔でやってらっしゃいました」

岩田「昔から、ことわざで笑いは最良の薬であると言われていています」

新実「普段の生活が間違いなく張り合いが出る」

岩田「笑ってすごす。それだけで幸せな気分になります。生きる力にもなる。色々な所に派生すれば

【意見】問題改善へ 指定医も注視を 横山尊氏

西日本新聞 2018年02月16日

◆旧優生保護法

19世紀後半に英国で優生学が提唱された。遺伝病の持ち主に断種（不妊手術）も辞さない優生思想はかつて全世界的に多くの賛同を得、米国では1900年代、30年代はドイツや北欧で同時多発的に断種法が制定され、10年代頃から優生思想を受容した日本でも40年に国民優生法が制定された。しかし、同法の断種（538件）は不徹底とされ、



48年に中絶も抱き合わせにした優生保護法が成立した。本人の同意を伴わない強制不妊手術だけでも計1万6520件にのぼる。

日本学術振興会特別研究員 横山 尊氏

今年1月、同法に基づき、知的障害を理由に不妊手術を強制された宮城県の60代女性が、「重大な人権侵害にもかかわらず、被害救済のための立法を怠った」などとし、国に1100万円の損害賠償を求める訴えを仙台地裁に起こした。

同法が96年に優生手術の項目を削除するなどした母体保護法に改正され今年で22年となるため、損害賠償請求権がなくなる民法規定の「除斥期間」（20年）に該当するかが現在の争点だという。しかし、優生手術への謝罪と補償を求める運動は90年代末から継続されてきたのに、厚生労働省などは、優生手術は「当時は合法」の一点張りで救済や実態解明を怠り続けた。今度は司法が「除斥期間」を持ち出すなら、理不尽の極みである。

ドイツやスウェーデンは優生手術への補償制度を設けた。日本でも、らい予防法違憲国家賠償訴訟で2001年に同法は違憲とされ、小泉内閣の判断で国は控訴を断念した。この際、類似の措置を日本も取ることを強く希望したい。

旧優生保護法をめぐる謝罪や補償を求める運動は、フェミニスト団体や障害者団体などが進め、昨今新聞社などが本格的に便乗している。しかし、最終的に行政の後押しは不可欠だろう。現在の内閣総理大臣補佐官の衛藤晟一氏は1996年の同法改正の立役者だった。安倍政権は問題改善を図る資格と責務を有すると考える。

各地の公文書館で優生手術関係史料の掘り起こしが進んでいる。現在の報道で看過されているものの、本当に目を向けるべきは優生保護法指定医の存在だ。同法成立の中心人物、故谷口弥三郎氏（産婦人科医、参議院議員）の意向で同法に指定医制度が盛り込まれ、49年に指定医団体の日本母性保護医協会（現日本産婦人科医会）が発足した。同団体こそ同法の運用では旧厚生省をしのぐほどの実権を握っていた。現在も同団体や全国の元指定医の下に関係史料が眠っている可能性もある。実態を知る関係者の協力も期待したい。そこまで進まねば、同法の運用の全容はいつになっても解明されないだろう。

横山 尊（よこやま・たかし）日本学術振興会特別研究員 1978年生まれ、鹿児島市出身、九州大大学院比較社会文化学府単位取得退学。博士（比較社会文化）。主著は「日本が優生社会になるまで—科学啓蒙、メディア、生殖の政治」。

【見解】 不透明るみに 問い続けてこそ 鹿児島総局・金子晋輔

西日本新聞 2018年02月16日

◆「陽光会」問題

私が手を挙げると、決まって微妙な空気が流れる。またかーそんな冷ややかな声も聞こえてきそうだ。ほぼ毎月開かれる鹿児島市長の定例記者会見。必ず尋ねているのが社会福祉法人・陽光会の問題だ。他の新聞、テレビ局の記者が質問することはほとんどない。「孤独」な戦いを続けて1年近くになる。

昨年3月23日付朝刊社会面で、陽光会が理事会議事録の偽造や不適切会計を繰り返していたことを報じた。この1週間ほど前、陽光会職員から内部告発を受けた。

社会福祉法人は自治体から補助金の交付を受けるなど公共性の高い団体。不正が事実なら、市民の税金が「食い物」にされていることになる。何より告発者の訴えに奮い立った。「地元メディアの他社にも相談したが動いてくれない。不正を報じてほしい」

初報以降も、記者会見の質疑や情報公開で入手した資料を基に、市が陽光会に改善勧告を出したことなど報道を続けた。その結果、さらなる不正の情報が寄せられた。

陽光会は運営していたデイサービス施設で介護報酬を不正受給していた。報道後、陽光会はこの施設を廃止（昨年11月）。市はこれまでに約4175万円の返還を陽光会に命じた。一連の報道がなければ、事実は今も埋もれていたかもしれない。

記者会見で繰り返し問うのは、行政の対応を「監視」する意味もある。

実際、市の公募事業選定では首をかしげるケースがあった。陽光会が市の認可保育園に選ばれた経緯を調べると、九州の他の県庁所在地と異なり、市職員だけでつくる審査会で選考していた。識者は「時代遅れ」と指摘した。報じると、市は外部有識者を交えた審査に改めた。市幹部は「自分たちでは気づかないことだった。行政と報道機関の緊張関係は必要だ」と語った。

去年は、官房長官の記者会見で、回答に納得ができるまで繰り返し質問する女性記者が話題になった。国政と地方行政では取り扱うテーマの種類や広がりも異なるが、私たちが暮らすまちの問題を疑問が晴れるまで何度でも尋ねるのは同じだろう。「調査は長期化しているが、しっかり対応する」と述べた森博幸鹿児島市長。陽光会の問題をこれからも問い続けるつもりだ。

力の差なし、いざ勝負！ うれしのレク ボッチャ大会 家族、職場、福祉作業所...多彩な



30チーム 佐賀新聞 2018年2月16日
白の目標球に向けて狙いを定める子ども＝嬉野市社会文化会館リパティ

パラスポーツの「ボッチャ」を楽しむ第3回うれしのレクボッチャ大会が12日、嬉野市社会文化会館リパティであった。市内外から参加した約30チーム約130人が、誰でも対等に楽しめるスポーツの魅力堪能した。

4コートでのリーグ戦で決勝進出の2チームを決め、さらにトーナメントで優勝を争った。未就学児を含む家族のほか、職場、地域団体、福祉作業所など多彩なチームが顔をそろえた。

ボッチャはバドミントンと同じ広さのコートで、「ジャックボール」と呼ばれる目標球を狙って両チームがボールを投げる競技。6球ずつ投げて、最終的に目標球の最も近くにボールを止めたチームが、そのピリオド（回）のポイントを得る。この日は1ゲーム4ピリオドで実施した。

参加者は、目標球がライン際に止まったり、一発逆転の投球があったりするたびに歓声を上げて熱中。相手のファインプレーにも惜しみなく拍手するなど、終始和気あいあいとした雰囲気を楽しんだ。嬉野町婦人会の女性（67）は「最初はよく分からなくても、だんだん知恵が働いてきて楽しい。誰でもできるところがいい」と笑みをこぼしていた。

大会後は、リオパラリンピック銀メダルの河合俊二監督による講習会もあった。13日には、日本代表の公開練習も同会場で行われた。

大分・別府の支援学校給食中死亡 県教委、第三者調査介入 証言職員、問いただす

毎日新聞 2018年2月16日

大分県別府市の県立南石垣支援学校で2016年に女子生徒が給食を喉に詰まらせ死亡した事故で、第三者委員会による教職員への聞き取り調査の際に、事故の核心に触れる証言をした職員を県教委幹部が問いただしていたことが、遺族や県教委への取材で分かった。

事故責任を問われる側の県教委は本来聞き取りに関与できず、遺族は「県教委による介入で調査の中立性が損なわれた恐れがある」と反発、第三者委が県教委を厳重注意した。【樋口岳大】

亡くなったのは、高等部3年の林郁香（ふみか）さん（当時17歳）。



バブリーダンス…待望の新しい動画！卒業する高3生にエール！ 登美丘高ダンス部OG「アサちゃん」主演
サンケイスポーツ 2018年2月16日
卒業をテーマにしたダンス動画に主演したアサちゃん（C）アカネキカクフレッシューズダンス2018

大阪府立登美丘高校ダンス部コーチで、話題をさらった「バブリーダンス」を振り付けたakane（あかね）がこのほど、昨年卒業の同校OGや今春卒業のメンバーら27人のダンサーが出演する動画「登美丘高校ダンス部OGアサちゃん主演 フレッシューズダンス『君はすばらしい！』」をYouTube（ユーチューブ）で公開した。

卒業をテーマにしたストーリー仕立ての2分21秒の作品で、高校生から大学生になる女の子の期待や不安を表現。卒業を控えた全国の高3生にエールを送る。

主演のアサちゃんは同校OGで、2016年日本高校ダンス部選手権の優勝メンバー。高校の制服、フレッシューズスーツで切れのあるダンスを披露し「表情をコロコロ変えているので見てほしい」と仕上がりに満足していた。

平成30年度当初予算案等についての情報サイト

大阪府

<http://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=30106>

<http://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=30092>

<http://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=30101>

<http://www.pref.osaka.lg.jp/hodo/index.php?site=fumin&pageId=30095>

ほか

大阪市

<http://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/zaisei/0000427172.html>

<http://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/seisakukikakushitsu/0000423678.html>

堺市

http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/koho/hodo/hodoteikyoshiryo/0213_01.html

http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/koho/hodo/hodoteikyoshiryo/0213_02.html

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行